**助成事業完了報告書**

（イベント・事業レポート）

日本財団　会長　笹川陽平殿　　　　報告日付：平成28年9月5日

■①事業内容（5W1H）

イベント名　　「みんなやればできるプロジェクトin　広島」

目的　　　　　・「生きる力」を育むという理念のもと、知識や技能の習得とともに思考力、

表現力などの育成を図る。

・子供が何かを成し遂げることで、自分の芯となる『志』を持つきっかけ

を与える。志とは「自信、協調性、発信力、好奇心、意欲、挑戦、

あきらめない気持ち」

・研修を一過性ものもとせず、継続と発展により長期的な人材の育成を

実現する。

日程　　　　　　2016/07/24（日）～25（月）1泊2日.／展示8/13（土）～9/4（日）まで

開催場所　　　　体験：ツネイシしまなみビレッジ　展示：安佐動物園ナイトサファリ

参加人数　　　　児童1７名（24日のみ子供記者1名参加）＋大学生6名

募集範囲　　　　広島市、福山市、尾道市

募集方法　　　　朝日新聞告知、チラシ（20,000部）学校配布、マツダ労組広報誌掲載、

　　　　　　　　JTB取引企業へのチラシ配布

運営手法　　　　広島NPOセンターと協働し、目的に沿ったプログラム構成と運営を行う。

　　　　　　　　子供に気付きの場を設定し、自ら能動的に挑戦し、達成感を感じる体験

　　　　　　　　を選定。また、家族との絆を再認識する仕掛けや、イベント後も継続的

　　　　　　　　に体験を振り返ることができる内容を組み込む。

■②事業評価

1.集客と効果目標の達成状況

　募集に最も効果的なチラシの新聞折り込みが、費用とタイミングの折り合いが

　あわなかったため実施できず、取引企業や学校へのチラシ配布に留まった。

　結果として、募集目標人数40名に対し、17名の集客。アンケート結果にも

　出ているが、内容が非常に高評価だっただけに、情報を広く告知できなかった

　のは大きな反省点。

2.事業実施によって得られた成果

　アンケート結果から、主催者の狙いがしっかりと参加者に届いていることがわかる。

　もっと長くして欲しいという子供の率直な意見が多くみられた。

3.成功したこととその要因

　選定したプログラムが、小学生の手の届きやすい内容であり、

4.失敗したこととその要因

　募集方法を再考する必要あり。雑誌、ラジオ、テレビなどのメディアを、人脈を使い

　うまく活用する方法を模索します。

　炎天下での海のカッター訓練では、軽い熱中症が発生。事前の案内や、当日の水分

　調達、実施時間の再考などを検討する必要があり。

■③事業レポート

**【海の救急学習・カッター教室】**

ＮＰＯ法人松原講師による海の救急・危険について学習しました。

気をつけたい3つのポイントや、「海の危険を理解し、自分の身は自分で守る」事の重要性、バディの大切さを参加者へ伝えました。

カッター訓練では、学生と一緒に4メートルのオールを

2人で持ち、息を合わせてこぎました。最後はレース！

優勝チームには金メダルが贈られました。



**【お魚ちょうちんづくり】**  
山口県の柳井特産「金魚ちょうちん」にオリジナルデザイン

をほどこした、世界に一つのお魚ちょうちんを制作。

瀬戸内の魚ってどんな魚？想像を膨らませて子供たちが

40個の作品を完成させました。

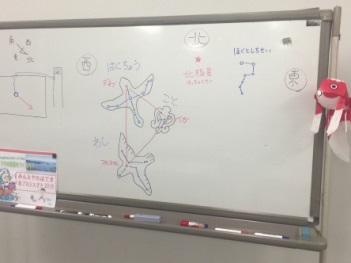


**【星空教室・未来について】**  
ツネイシしまなみビレッジのサッカーグランド、ここは夜になると真っ暗な中、キラキラと星が輝く。

子供たちはオリジナルお魚ちょうちんに灯りを燈し、興奮しながら夜のお散歩。

グランド中央で、お魚ちょうちんの灯りを消し、ランプの周りに円になって座る。

ここで、サプライズ企画。保護者から子供たちに手紙を預かっている事を発表。

学生が代読し、子供たちはその言葉に耳を傾ける。親への感謝の気持ちを再確認し、涙する子供も。温かい素敵な時間を過ごしました。





**【せとうち水族館プロジェクト】**

カッターチームで最後の共同作業。チームごとにデザインのテーマを決め、大きな和紙に指紋アートの作成。テーマ：Ａチーム「陸と海」Ｂチーム「海の中」。

せとうちの海の魅力を指紋アートを通じて再発見ちょうちん・指紋アートは安佐動物園のナイトサファリで展示されました。

安佐動物園　展示期間（8月13日（日）～9月4日（日）まで）





参加者の声

・たくさん友達を作ることができた。

・カッター訓練でみんなと息を合わせて金メダルをとること

ができ、うれしかった。

・金魚ちょうちん作り、みんなで協力できてよかった。

・お母さんたちからの手紙をもらって少し泣きそうになった。

・来年も再来年も参加したいです。



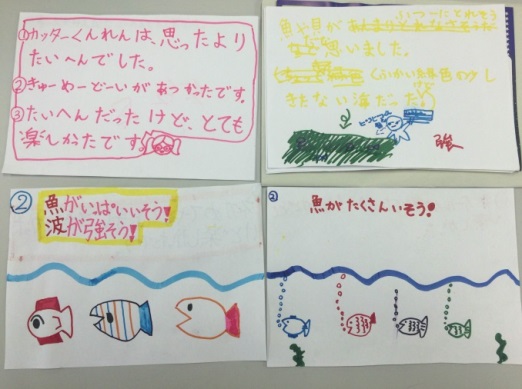
ｓａｎｎｋａｓｙａ









****

